

# JAITI 54

Japanese Agricultural Inservice Training Institute Foundation

◆URL <http://www.jaiti.org/> ◆E-MAIL [jaiti@janis.or.jp](mailto:jaiti@janis.or.jp)

JAITIとは、「公益財団法人日本農業研修場協力団」の英文、Japanese Agricultural Inservice Training Institute Foundationの頭文字の略で「ジャイチ」と呼びます。1989年、農業を生活基盤とする、開発途上国の農村地域社会の人々が、「生きる根幹」の食料を安定確保することで、生活の中に基礎的な教育と公衆衛生に目を向けるゆとりを持ち、健康で、自立心豊かな地球上の「友」になることを願って、活動が展開されています。

発 行 公益財団法人 日本農業研修場協力団  
事 務 所 〒386-0502 長野県上田市武石沖605-5  
TEL 0268-85-3465 FAX 0268-85-3583

## 今日のジャイチ

昨年春からネパール各地域で順次実施されていた自治体の首長たちを選ぶ地方選挙もほぼ終えて、いよいよ新しい政治が動き出す年になるものと思います。

とは言え、国外の支援にそのほとんどを頼らなければならぬ国情のネパールでは、都市部の交通渋滞の緩和のための鉄道の敷設なり地方への高速道路網などといったインフラ整備には、まだまだ時間を要するところですが、学校の児童たちが抱く夢の絵の中には、特急列車が走り、空には飛行機が飛び交い、花や緑に囲まれた素敵な街並みなどが鮮やかに描かれています。

児童たちが成長した暁には、こうした夢の世界が二つでも実現されているような国づくりが進められていくことを願います。

### ◆学校の様子

大地震により被害を受けた学校施設は、再建築や補強工事、仮設教室の設置などで授業に支障のない範囲で

概ね復旧が済んできました。レカリ校は依然仮設教室での授業が行われていますが、バシフアント校では政府からの資金手当てが行わ

▼仮設教室で勉強に励むレカリ校の生徒たち



れたことにより、新たに2クラスが使用できる教室棟2棟が建設されました。

壁がひび割れたことにより使用ができない状態にある2年生の教室は今のところ修復の予定は立っていませんが、今回の建設で教室数が増加したことで、特別授業や幅広くいろいろの科目に対応した利用ができるようになりました。



▲政府からの予算で建設された教室棟

開学から25年を経過するバシフアント学校ですが、今後の学校の方向性として、12年制への移行や幼稚園クラスの導入など、教育制度の見直しに合わせながら、地域のモデル校となるような学校づくりに校長先生をはじめ学校運営委員会(SMCC)も取り組んでいます。

ター学校では、やはり生徒数の確保に苦慮している状態です。当初300人の生徒規模で発足したブライトター学校ですが、現在生徒数が200人程と大きく下回っている状況からも授業料の収入をもって運営を行う学校にとっては厳しい状況となっています。

その要因としては、前号(53号)でもお知らせしたように、教育政策の転換や試験制度の変更などと、外部要因が大きく働いていることは否めませんが、このような状況の中にあつて、教職員はもちろん、ジャイチネパールのアドバイザーであるビム・ラル・グルン氏らにより、他校とは違った学習の取り組みを行うなど、特色ある学校づくりに尽力しており、これらの成果が学校にとって良い結果をもたらすことを期待しています。

ジャイチも、これまで学校施設の充実や保守に重点を置いて、どちらかというとハード面での支援を主体にしてきていますが、こうしたソフト面での活動も合わせながら、この困難を乗り越えていく必要があります。皆様方にも格段のご支援をいただきますようよろしくお願いいたします。

### 両学校に辞書を贈呈



▲ブライトター学校で英語辞書の贈呈式

ネパールでは、公用語の一つとして英語教育が幼稚園の段階から授業に取り入れられ、バシフアント校やブライトター学校においても、国語としてのネパール語と同様に他の科目でも英語による授業が行われています。

ネパールでは、民族が地域によって様々なように、言葉も多様な言語を持つており、本来の言語を大切にすべきとの指摘もあるようですが、生活の糧を外国に求めざるを得ない実態の中で英語は非常に重要なアイテムとなっています。これまで学校の現場では、十分な英語の辞書が無かったことから、この度、滝和美氏らのグループからの支援を得て、2つの学校に英語の辞書が贈られました。

# 第21回ジャイチツアーが行われました

昨年の11月8日から15日の日程で、第21回目となるジャイチツアーが7人の参加により行われました。参加されました皆さんから、旅の感想が寄せられましたので、ご紹介いたします。本年も同時期に実施を予定していますので、今から計画をしてみたいかがでしょうか。

## ツアーに参加して感じたこと

田山 豊實

この度6泊8日のジャイチツアーに参加しました。

ちよつときついスケジュールでしたが、天気に恵まれ、訪ねた場所から、すっきりしたヒマラヤ連山を目の当たりにすることが出来、参加者全員が、「オーっ！すーっ！ーい！」と声をあげつつ、ひたすらひたすら眺めていました。

今回のツアーの目的が、何点かあるのですが、そのうちで私なりに心に残っていることについて、述べたいと思います。まずは、ジャイチが支援している学校、レカリ・バシファント学校、カカニ・ブライター学校を訪問した時のことです。校門で、生徒、先生達一人一人が手作りのマリーゴールドの首飾りを持って待っていてくれ、歓迎の意をもつて私達二人一人の首にかけてくれました。おかげで、マリーゴールドでうずまった半分の顔に、本人も生徒たちも大笑いとなり、和やかな出会いとなりました。



生徒たちからの首飾りで顔も埋まって

一方、手作りの首飾りを、この後どう扱ったら良いのか戸惑う私がいまいました。結局は、学校で引き取ってくれましたが、一部は帰途に立ち寄った、カカニの丘のタイ航空機墜落事故慰霊記念碑の所に、お見舞いの気持ちでおかさせていただきました。置きっぱなしにしてきてはいけないことだったかも…ですが、ジャイチニュースレター53号(2017年7月号)に、カカニ・ブライター学校は生徒数が年々減少してきていることへの対応、レカリ・バシファ

ント学校では、2015年の地震による乗損校舎の改修が、なかなか進まないでいることなどの課題について報告されています。

そう簡単に解決できそうにない課題と向き合いつつの学校なのですが、まずは元気な生徒達、真剣に生徒達と関わっている先生達が日々々々んでいる学校だと、確認できたことが大きな成果でした。

一昨年でしたが、ある先生が、「最近農業をしたがらない生徒たちが増えてきている」とつぶやいた一言が、ずっとひっかかっているのですが、日本も同様な状態になりつつあるので、そう簡単、単純な問題では無いことだと、改めて認識させられました。特にネパールでは、海外への出稼ぎ者が増加していて、農業より、出稼ぎによる収入の方が多額であれば、自分たちの生活を守る、展開する為にも、多額の借金を抱えながらも、出稼ぎに出るのはあたりまえという認識になりつつあるようです。見方によれば、生活の自立

のため「と言えるからです。

これまで、ジャイチは、「売れる農作物で、自立を図る」というモットーで、支援してきているかと思いますが、これからの支援は、ネパールの現状、課題を多角的に把握しつつ、販売方法などについても、自分なりに農産物の育成にトライしているネパールの人たちと共に、築いていくことではないかと、思わされたツアーでした。

(東京都品川区)

## ネパール訪問記

内田 守之

数年前からネパールに興味を抱いていましたが、今回漸くJAITIツアーに参加同行できました。

山岳の国であることは承知していましたが、ほとんどが傾斜地で、ホテルもすべての移動には階段が付きもの。車は古く、道路も100km以内の行動に5時間も掛かる悪路でした。

農地も棚畑がほとんどで、このような所での生活は…、いやいや、住めば都でしょうか？。子どもたちの通学は、山道を片道2時間は掛かると言う。

JAITIが支援する学校2か所を拜見しました。まず、バシファント学校で

は、当校を望むビュウポイントから見た時「良い敷地」だと思いましたが、現地に着いて見ると急坂の中に校舎が点々とある状態でした。

生徒たちの凄く歓迎はインドでも経験しましたが、まったく同様で、私以外の方々の長い支援の賜であることを感じました。



ビュウポイントからバシファント校を望む

授業状況を拝見。敷地内で出会うすべての子どもたちは、挨拶と謝礼の気持ちが増っていました。

ポカラは楽しみの一つであるヒマラヤ山脈が目前に見える街で、私たちはサランコットに登りました。

私の住む上田の「太郎山」から見た風景と似ているね、山間合いを流れる千曲川などとの話しも。後ろはヒマラヤ山脈を眺めながら、感動、感動、適当なトレッキングをありがとうございました。

終盤は、もう一つのカカニの

学校を訪問し、同様の歓迎を受けました。

ここは、校舎も整っており学校らしい校舎の屋根には学校名とJAITIの文字が描かれており、その向こうにはヒマラヤ山脈を望む良い環境で、よい勉強ができていようように思いました。

生徒たちによる民族舞踊で歓迎の気持ち伝わってきたので思わず感動しました。

6日間のネパールの旅でしたが、このような環境であらゆる分野に支援が必要なのがわかりました。

2つの学校からは、これらの支援を始めたJAITIの皆さん、そして現在も支援をしておられる皆さんへの感謝が漲っておりました。

今回の旅行は、程良い計画と観光、同行者にも種々教えていただき、楽しさが倍加しました。(長野県上田市)



カカニ・ブライター学校での歓迎の踊り

### 進む造成工事

カトマンズ市内には、未だに震災時の避難テントで暮らす人たちの姿が見られます。また、地方から仕事を求めて人口が膨れつつある状況からか、住宅事情は大きな問題となつているようです。これまでもカトマンズ市街周辺の農地は急速に宅地などに様変わりしてきていますが、そんな事情を反映するかのよう、郊外に足を運んでも至るところで宅地造成らしき工事を行っている姿を目にします。



▲山肌を削り造成工事が進められているカトマンズ郊外

### インフラ整備にも

公共工事のうち、カトマンズ市内のメイン道路の拡張はほぼ済んできており、現在、市内の幹線水路であるバグマチ川（火葬が行われることで有名なパシヤシナートを流れる川）の河川改修が橋梁も含めて大々的に行われています。

ゴミとヘドロの流れる劣悪な河川環境から、近い将来には水鳥が遊ぶ川になって欲しいものです。

農地であった比較的平坦な地形での造成はともかくも、中には山肌を削り取った斜面に区画線を入れただけの状態で分譲が始まっている場所も見受けられ、需要の高さを伺わせませんが、土砂崩壊や安全性が危惧されるような状態もあり、秩序ある開発が行われることが望まれます。



▲人海戦術で行われているカカニへ通ずる道路の拡幅工事

また、カカニへ通ずる山道も拡幅工事が着々と進んでおり、車社会に対応した道路環境が整ってくることにより、一層カトマンズ市街地との距離が近くなり、ライフスタイルも変化を余儀なくされることが予想されます。現に、街道筋に構えていたいくつかの宿泊施設や飲食店などは、利用する者の姿があまり見られなくなっています。

市内を走り回る車の多くは、個人タクシーらしき賃稼ぎの車ですが、運転席を見ると、それらしく運賃メーターは付いているものの適正に作動しているものは少なく、スピードメーターも針が0を差したままで、とにかくエンジンが掛かって、ブレーキが効けばよしといった状態の車に乗ることはよくあることです。運転手も特にお客に気を遣うわけでもなく、収入になればよいことなので、このような車を拾ってしまった時はタクシー代は交渉次第ということになってしまいます。

一円でも多く収入に結び付けたい運転手からすると、罰金は大きな痛手になるといふことなのでしょう。クラクションをむやみに鳴らさなくなりました。

### クラクションに罰則

前号の巻頭文で、市内の車の往来が静かになったことに触れましたが、そこには深い意味があったことを後の情報で知りました。無意味にクラクションを鳴らした者には500ルピー（約540円）の罰金が課せられる制度ができたということですが、また、横断歩道以外を渡つた歩行者にも200ルピーと、やはり、罰金刑は相当効力があるようです。

### ジャイチネパールレポート

### 困難な局面を迎えたカカニ・ブライター学校の今

今年度のブライター学校の入学者数が300名の目標を達成できませんでした。新しく入学してくる生徒の減少に加えて、これまで在学していた生徒たちも何人かが学校をやめました。

この理由は

#### 1、政府の教育政策の転換

およそ20年ぶりに行われたネパールの地方選挙の後、政府は新憲法により、地方自治体とみなされている市町村レベルに教育予算をほぼすべて解放しました。これを受けて市町村では政府の援助で運営されている公立学校の改善を進めており、英語教育も積極的に進めるなど教育の質の向上にも取り組むようになりました。

また、公立学校は授業料がかからないために、保護者たちは敢えてお金を掛けて私立の学校へ子どもを入れる必要性がなくなつてきています。

#### 2、試験制度の変更

これまでは、10年の就学を終えると卒業試験でもあるSLCという国家試験を受験し、その成績の如何により卒業または上部へ進学するシステムが取られていましたが、この試験制度が変り、新しい制度では落第させるといふことが無くなりました。

カカニ地区の若者たちも、他地区と同様にその多くが湾岸諸国や働ける国へ出稼ぎに行く傾向があり、子どもたちは単に合格だけすれば十分のた

めに、SEE学校教育審査で良い成績で合格する必要も無く、保護者にもこうした認識があります。

#### 3、公立学校を優先

優秀な成績を収め、医学、科学、工学、農林業などの学部に進学する学生には、政府から奨学金が支給される機会がありますが、この奨学金を受ける選定にも公立学校の学生が優先されることから、一部の学生の中には政府支援の公立学校を選択する方向に動いているようです。

このように、政府の新しい政治政策の転換により、農村部の私立学校は大きな影響を被ることになり、学生人数および収入の減少により学校経営は困難な状態に直面しています。



▲生徒数が少ない教室が見られるようになってきた

2016年12月21日〜2017年6月20日迄順不同敬称略

# ご協力有難うございました

この六ヶ月の間に、左記の方々より、ご支援を戴きました。お礼申し上げます。

## ◆ 人的協力

〈東京都〉 滝和美  
 〈神奈川県〉 小林みよ子  
 〈長野県〉 白井千鶴子、柿島明子、菊池健介、株式会社北澤土建、有限会社佐藤新聞店、田村由紀子、根岸厚次・真貴子、松久よし子  
 〈福岡県〉 ウツタム・タパ  
 〈海外〉 ネパール ホテルサンセットビュロー・アルジュン・シン／絃子・トラチャン

〈群馬県〉 島田寛治、橘眞智子、堀越利通  
 〈埼玉県〉 斉藤節子、松本成生  
 〈千葉県〉 青木洋、浅井邦彦、高橋節子、武藤貴子、吉村芳江、横館久宣

〈東京都〉 石田昭夫、今井正史、株式会社イメージブレーション千原卓司、株式会社ウエック・トレック、上原真知子・一茂、岡田信一、小川金三郎、小野寺えり子、鎌倉恵子、鎌田はなよ、神長善次、河野節子、木村慈子、黒田秀基、須田清法律事務所須田清、滝和美、株式会社トップ東京営業所、中川彰、西岡巖、西重正博、二瓶幸子、野村明賢、藤本紀子、松田重箕、山縣敏子

〈神奈川県〉 小林みよ子、島田正義、十河三郎、堀内弘栄、丸山進治・佳子、八木下克巳

〈長野県〉 株式会社アサマネット、井沢永美、井出正義、井出守雄、有限会社うずら家徳武敏幸・たつ子、内田守之、内山富之、奥野恵子、小笠沢浩一、小山田秀士、金子元昭、菊池健介、北澤純一、久保田寛人、黒沢勇人、高木洋子、小池文男、小林淳、小林展子、五味あつ美、斉藤一美、齊藤敏、坂井永一、澤山啓司、零田貢、有限会社大和印刷、滝沢千栄子、武内美栄子、田村由紀子、直井保彦、長野県連合青果株式会社、株式会社長門牧場代表取締役小林久雄、松久よし子、国際交流フェスティバルin丸子、宮下静子、民進党長野県第三総支部、松林進、宮澤令行、山越好彦、横関絢子、六川楨彌、ジャイチ事務所寄附金箱

〈新潟県〉 帯瀬憲五、小森修  
 〈福井県〉 上田輝司  
 〈岐阜県〉 庄村敏  
 〈静岡県〉 伊熊武夫  
 〈愛知県〉 伊藤正裕、合資会社中京堂浅井延子、後藤多恵子、白澤たづ子、都築宏子、本田忠彦、村瀬政子



「薪を運ぶ少女」 絵 マン

## ご寄附のお願い

ジャイチの活動を何時も心に留めて下さり、感謝申し上げます。皆様方からのご寄附に対し、所得税法・法人税法上の優遇措置を受けることができます。以下に説明致しますので、今後ともご協力をお願い申し上げます。

### ジャイチの基本的財源として

皆様よりいただいた寄附金を、ジャイチの公益活動を維持・継続していくための財源として、受け入れるものです。寄附金の用途・内容については、ホームページ記載の決算書等により、皆様にお知らせ致します。

その中より余剰資金が発生した場合は、今までどおり基金として繰り入れいたします。基金は、ジャイチの財源を安定させ、ジャイチの活動をよりいっそう強固な活動につなげることが出来ます。

### 所得税法、法人税法の優遇措置

公益財団法人は、すべて税制上の特定公益増進法人となり、寄附していただいた金額は、下記の寄附金優遇措置の対象となります。

- ①所得控除 その年中に支出した寄附金の合計額より2千円を差し引いた金額が総所得金額等、退職、所得金額又は山林所得金額より控除できます。
- ②税額控除 その年中に支出した寄附金の合計額より2千円を差し引いた金額の40%が所得税額から控除されます。

(例 10,000円の寄附の場合 所得税が3,200円戻ります。)

上記優遇措置を受けるには基本、確定申告が必要です。(税法の改正等がありますので、詳細は税務署にお問い合わせください。)

### 郵便振替・銀行振込での募金

- お振込先
  - ◎郵便振替 00510-4-65434
  - ◎銀行振込 八十二銀行 丸子支店 (普)420577
  - 座名 公益財団法人 日本農業研修場協力団

## ◆ 寄附金

〈北海道〉 小野倫夫、内藤喜美子、水口馨  
 〈茨城県〉 魚津慶子、折本拓郎、長谷川秀雄、藤井英雄  
 〈栃木県〉 森聖哉

## ◆ 寄附品

〈北海道〉 中川洋子  
 〈群馬県〉 川野竹子、島田寛治、松原啓子  
 〈埼玉県〉 山田まゆみ  
 〈東京都〉 安藤雅子、尾身嘉一・恭子、小池敏雄、佐瀬萬亀、滝和美

〈滋賀県〉 岡田千尋、ふくらう基金玉田誠二、宮川一男  
 〈兵庫県〉 新海泉、玉岡昇治  
 〈和歌山県〉 中前孝啓  
 〈鹿児島県〉 福吉巧  
 〈神奈川県〉 小林みよ子、櫻井道子・小山佐都子、鈴木貴久子、橋本敬子、長谷川安正、八木下克巳  
 〈長野県〉 柿島明子、加藤美幸、菊池健介・道子、清住栄子、小平篤、小林展子、有限会社信濃ニット、有限会社大和印刷、滝沢英子、滝沢千栄子、武井美樹、田村由紀子、豊田祐一、長門小学校PTA子育て委員会、株式会社長門牧場代表取締役社長小林久雄、長門郵便局、福澤貴美恵、舟木公栄、堀邦昌、松

久よし子、松本筑摩東郵便局  
 〈愛知県〉 白浜あけみ、株式会社大森器械店大森森次  
 〈滋賀県〉 苗村善和  
 〈大阪府〉 寺井早苗、鎌野富美子  
 〈兵庫県〉 園田学園女子大学近松研究所乾安代、丸尾信  
 〈佐賀県〉 平尾紀美子  
 〈ネパールへ直接〉  
 帯瀬憲五、Maxine Cooper

# ネパールへ 行ってきました

山田 眞吉・洋子

〈きつかけは〉

私たちは、大学時代にはワ  
ンダーフォーゲル部に所属し、  
自然を楽しんできました。卒  
業しておよそ半世紀が経つ今  
も、なんだかんだと言いなが  
ら仲間が集まり、元気な姿  
を確かめ合い、酒を酌み交  
わす。そんな集いの一つが昨年  
春の「旬を食らう会」でした。

そこで再会した滝和美さんか  
ら、今回のジャイチツアーのお  
誘いがあり、個人では訪れる  
ことの難しいヒマラヤの国と  
いうこともあつて、夫婦で参  
加することにしました。

〈出かける前は〉

私たちは、これまでも幾  
度となく海外へ出かけていま  
すが、いずれも個人旅行で



ダマンのホテルの屋上でヒマラヤを一望

ありツアー旅行は今回がはじ  
めてでした。

どこをどうやって巡るのか。  
どこで何を食べるのか。お土  
産はどうするかなどに悩まな  
くてもよいというのは、なん  
と気楽な旅なのかと思いつつ  
も、『地球の歩き方』で二通  
りの予備知識を得ておきま  
した。

〈着いてから〉

2日目には、ジャイチが支  
援しているレカリ・バシファン  
ト校へ向かいました。信号機  
は点灯しておらず、交通警  
察官の信号で車の流れを  
制御している光景を見て、ま  
ずビックリ。少しでも隙間が  
あれば前へ出ようとするとバ  
イクが多いのは台北・ホーチ  
ミン・ハノイ等で見かけた光景  
と同じでしたが、何かが違う。  
道路は穴だらけ。おまけに  
砂塵が霞のように道路付近  
にたなびいている状態です。

貧しい国であるがゆえの違い  
なのでしょう。

訪問先の学校へ向かう山  
道で、通学途中の女子児童  
を便乗させました。「山を越  
えて、歩いて通っている」と  
聞き、貧しさの中にも一筋の  
光を見つけた気がしました。  
学校に着くと生徒たちがマ  
リィーゴルドで作った首飾り  
をかけてくれて歓迎してくれ  
ました。生徒たちの眼の輝き  
がまぶしかったです。6日目に訪

問したカカニ・ブライター学  
校でも同じように歓迎を受  
けました。彼らに託せば、こ  
の国の未来は明るいと感じま  
した。

〈ヒマラヤの峰々は〉

7日間のネパール滞在中は  
天気に恵まれ、ヒマラヤの峰々  
の姿を存分に楽しむことがで  
きました。圧巻は、3日目の  
ダマンのホテルの屋上から見た  
エベレストからダウラギリまで  
の400kmにわたるヒマラヤ山  
脈の大パノラマと6日目のマウ  
ンテンフライトで間近に目に  
したエベレストの雄姿でした。  
おかげで楽しい旅になりました。  
がどうもございました。

(愛知県岡崎市)

\*\*\*\*\*

註：山田洋子様からも特  
別にご寄稿をいただきました  
ので、重複部分は省略させ  
ていただき掲載いたします。

## ネパール見聞録

山田 洋子

ネパールへ行ってみて分か  
たことの一つは、地図や写真  
ではわからなかった地形を実  
感したことです。

雪を頂くヒマラヤ山脈が連  
なる雄大な景色は、写真で  
よく眺めていました。

そこで何となく、ヒマラヤ  
は8000メートルもあつて高  
いので、ネパールのどこから  
も山脈を望めるのではない

と想像していました。

しかし、3000メートル  
を超える山が幾つも続き、  
山また山が連なっていて、平  
地も少ないネパールでは、前  
に立ち足はたかる山の蔭に隠れ  
て、遠くまで展望がきくところ  
は限られていました。

日本も山国ですが、平野  
は多いし、そのスケールが違い  
ます。幾重も山を巻いて急  
坂を登っては降り、登っては  
降りて進む、赤茶けた埃だ  
らけの道、車の振動に何度  
も頭をぶついたりしながら、  
体感として、この国の大地が  
海拔80メートルから8000  
メートルといわれるほどの高  
低差が大きいことを感じたの  
でした。

海が無いネパールでは、港  
を造ることができず、製品  
を作っても輸出するには隣接  
するインドや中国など外国  
を通らなければなりません。  
海に囲まれた日本の地形  
が恵まれていることにも改め  
て気づかされました。

急斜面の山は段々畑がつく  
られ、家も狭い斜面の上に  
点在するように建っていま  
す。もともとは焼き畑農業  
で、移住して暮らしていたとい  
う人々の暮らしは、定住す  
るようになった今も、各自が  
独立しているようで、集落を  
つくってまとまって住む稲作  
中心の日本の農村とは異なっ

ていました。

山間部では自給自足に近  
い暮りで、朝早く山に薪取  
りに行き、背中いっぱい薪  
を背負って急斜面を降り降  
りする女性たちの姿が印象  
的でした。どこに行くにも2  
〜3時間歩くのは普通のこと  
のようです。



早朝から薪を背負って歩く女性たち

は、学校に居ることそのもの  
が楽しいようで、始業前に校  
庭で遊ぶ子どもたちの目が生  
き生きと輝いているのが印象  
的でした。

ネパールから帰国する深夜  
のカトマンズの空港は、多く  
の人でごった返し、若い男性  
たちで足の踏み場もない程で  
した。毎日同じ光景が繰り返  
返され、インドや中東のドバ  
イなどへ出稼ぎに行くのだそ  
うです。

2ドル以下で暮す人々が約  
80%を占めるという貧しいネ  
パール。学校で学んで国を良  
くしようというよりも、他  
国に脱出して現金収入を得  
ることが一番早い方法とのこ  
とでした。

薪を運ぶ女性たち、学校  
で出会った子どもたち、空港  
で見た若者たち。  
ネパールの未来をいろいろ  
考えさせられました。



段々畑と稜線に点在する家々

# よつやく 復旧の兆しが

3年前、ネパールの襲った大地震により壊滅的な被害を受けた、世界文化遺産として、また、ネパールの観光の最大資源の一つでもあるカトマンズやパタンなどにある旧王宮広場や仏教寺院などの建造物の修復作業がようやく目に見えるようになっていました。

足場が高く組まれた工事現場には、中国やアメリカをはじめ諸外国からの援助であることを示すバナナが大きく掲



▲復旧の姿が見えてきたカトマンズ・ダルバール広場

げられ、もちろん日本の国旗や技術者などの名前を表示した現場も方々で目にします。

また、資材の乏しい中、瓦礫内のレンガなども少しでも有効に使えるよう拾い出し、再利用に向けて各所に積み込まれています。

長い歴史を持った建造物だけに、修復技術も並大抵なことではないであろうし、十分な機械力も充てることができないことを想像すると、完全修復にはまだまだ月日が掛かるものと思われま

一方、観光施設であることと、工事現場であることの双

方を持ち合わせているとは言え、足場の組まれた建物に多少の規制はあるにしても、ネパールの人たちは、その建物内に立ち入って、お祈りに、集会にと、震災前と変りない日常生活を過ごしている姿がありま

日本国内であれば、このような場所には関係者以外は立ち入り禁止、その上、ヘルメット着用は鉄則ですが、ここではやはり、敬虔な宗教心の表れなのでしょう。建物の形ではなく、そこに宿る神仏の真の姿を知っているからなのかもしれません。

## 事務局だより

### ▼ジャイチ

- 7月 ・機関紙53号発送
- 8月 ・ジャイチツアー募集事務
- 9月 ・コパン農業学校関係者と面会  
・国際交流フェスティバル in Saku 参加
- 11月 ・ジャイチツアー実施(8~15日)
- 12月 ・理事会開催  
平成29年度上半期事業報告  
・機関紙54号企画・編集

### ▼ジャイチネパール

- 7月 ・両校夏休みに入る。バシファント学校2・3年生教室修理・塗装  
・ブライター学校でオーストラリアのダビッド氏8~9年生に授業
- 8月 ・ブライター学校教師募集
- 9月 ・1学期試験
- 10月 ・デザインとティハール祭休暇  
・ブライター学校で8~10年生、教師を対象に環境における暴力等に対するプログラムの研修を実施
- 11月 ・ジャイチツアー案内  
・ブライター学校へオーストラリアの大学生7名がボランティア

バザーを  
ありがとうございました。  
・国際交流フェスティバル in Saku

### 募集予告

## JAITIネパールの 農場と学校訪問の旅

#### ◆日程

11月初旬 6泊8日の予定

#### ◆旅行代金

お一人様30万円の予定

交通費(航空機はエコノミークラス)、宿泊費、食事を含まず。但し、日本国内の交通費と海外旅行保険は別途になります。

#### ◆最小催行人員 10名

#### ◆企画 ジャイチ

#### ◆主催 (株)西遊旅行

### 物故者のお知らせ

ご冥福をお祈りしますと共に今までのご支援に感謝いたします。

- 西澤 久幸様 長野県上田市 十七年三月
- 宇佐美慶一様 静岡県島田市 十七年七月
- 木村 武彦様 東京都町田市 十七年七月
- 倉信 一成様 長野県上田市 十七年九月
- 白西紳一郎様 千葉県千葉市 十七年十月
- 宮崎 昭様 長野県上田市 十七年十一月
- 中川 彰様 東京都府中市 十七年十二月
- 土屋美智子様 東京都世田谷区 十七年十二月

## 書き損じハガキを送って下さい。 未使用も歓迎。

### 年賀ハガキの書き損じ・余りも歓迎

(古いものもOKです)

(切手に交換し、通信費に役立たせていただきます。)

(前回43,256円分の切手と交換できました)

### お願い

ネパールへのジャイチの荷物運搬(主に生徒用の布カバン・文房具等)のお手伝いをしてくださる方は非ご連絡下さい。



### 編集後記

今冬は寒さが厳しく、大雪の恐れもあるとの予想です。ラニーニャ現象が影響するのだそうですが、自然というのは真に氣まぐれで、昨年も九州地方の大雨による大災害の発生や、まだまだ頻繁に大地震を揺るがしている地震など想定外の出来事を平気で起こしてくれま

ネパールで時々目にするのが、寒い時期でも水場で真水で身体を洗っている姿です。多少は、天気の良い暖かい時間を選んでしていることだと思いますが、風呂の文化の日本からすると、修行とも言える様相です。

皆さん風邪など召さぬよう冬を乗り切りましょう。そして、平穏な年であるようお願いいたします。